備後の中世武士団

―備後国人衆の盛衰―

備陽史探訪の会会長　田口義之

１、在地武士と西遷武士団

《記録に残る在地武士》
①大田庄の橘一族…太田・桑原の「郷司」から大田庄の「下司」、西国御家人へ
②「平家物語」の奴可入道西寂…平家に味方し没落、宮氏の先祖か。
《鎌倉幕府の成立と西遷武士団》
①備後の地頭
・大田庄の三善氏…橘氏跡を継承、分割相続により庄内各地に庶子家が土着
・地毘庄の山内首藤氏…鎌倉末期に惣領が関東より移住
・三谷郡の広沢氏…庶子家が惣領の代官として入部（広沢江田・同和智氏）
・備後守護長井氏…庶子家が国内各所に入部（田総・福原・長和・上山）
②西遷の契機
・武士団の内情によるもの（山内首藤、広沢一族）
・蒙古来襲の影響（幕府による御家人の西国移住政策）

《在地領主制の展開》
①職の体系と分割相続
・「職」とは…本家職・領家職・地頭職・公文職・名主職など
・惣領制と分割相続…惣領と庶子
・在地領主と荘園領主…地頭請、下地中分（福山市瀬戸町、世羅町宇津戸など）

《悪党の登場》
①幕府政治の変遷…執権政治から得宗専制、天皇家の分裂（持明院・大覚寺統）
②尾道の悪党…備後守護代尾道浦乱入事件（元応元年【１３１９】）
③大田庄預所淵信…一国の守護猶以って比肩に及ばず、何を況や自余の地頭御家人等は（高野山文書）
④桜山氏の挙兵…元弘の変（１３３１）、佐波・光成・桑原・重政氏等

《国人領主制の展開》
①南北朝の内乱…戦乱で遠隔地の所領経営が不可能に。一族の力を結集
②相続制度の変化…分割相続から嫡子単独相続へ。一族庶子の「被官」化
③国人・国衆の登場…その国土着の武士としての自覚→「国人一揆」の出現

２、備後の国人衆

《鎌倉御家人に出自を持つ者》

①山内首藤氏…本国相模国山内庄、地毘庄（庄原市北部）地頭。鎌倉末期山内通資の代に備後に下向。蔀山城・甲山城を築く。応仁の乱以降勢力を拡大、直通の代には「備後守護代」に。天正１９年（１５９１）の知行高は６７４６石。

②広沢江田氏…本国武蔵、三谷郡地頭広沢氏の庶家。江田天良山城から三次市三若の旗返山城に本拠を移す。玄蕃助隆連の代、天文２２年（１５５３）１０月、毛利氏に攻められ滅亡。

③広沢和智氏…同上。後に吉舎町に南天山城を築き本拠とする。毛利隆元毒殺の嫌疑により、永禄１１年（１５６８）厳島で殺害される。子元郷は毛利氏に忠誠を誓い、家の存続を許される。天正１９年の知行高は２９２７石。戦国期に世羅郡に勢力を持った上原氏はこの家の庶子家。

④長井田総氏…鎌倉時代備後守護を務めた長井氏の庶家。田総庄（庄原市総領町）地頭。長和庄東方（福山市水呑・田尻町一帯か）地頭職、小童保（三次市甲奴町）地頭職なども領有。天正１９年の知行高は出雲で５００石。

⑤杉原氏　…本拠杉原保（福山市丸の内・本庄町一帯）。鎌倉後期京下りの下級官人として鎌倉に下向。幕府御家人となり、奉行人を務める。南北朝期、庶子家の信平・為平兄弟が尊氏に味方して木梨庄（尾道市北郊）、高洲社（同高須）福田庄の地頭職を拝領して勢力を拡大。後為平の後裔は沼隈郡山手に移り銀山城を築く。

《西国武士の系譜を引く者》

①宮氏　…小野宮実頼の子孫が九条家の荘園（奴可東条）に土着し在地武士となる。一説に「平家物語」に登場する奴可入道西寂はその先祖という。南北朝期以降大きく勢力を伸ばし、備後を代表する国人となる。惣領家の下野守家は戦国中期に亡んだが、下野守家に対抗した上野介家の一門は久代宮氏、有地宮氏として戦国末期まで勢力を持った。天正１９年の知行高は有地一族が計２１６８石、久代一族が３０００石余である。

②三吉氏　…三蹟の一人として有名な藤原行成の四男権大納言兼範が備後三次郡に下向して比叡尾山城を築き、備後三吉氏の祖となったと伝える。一三代致高の代、毛利氏と起請文を交わして臣従した。宮氏と並んで備後を代表する国人で、泉氏（本拠庄原市口和町

黒岩城)、湯木氏（同釜峰山城）池上氏（同尾道市御調町雲雀山城)、森光氏（同　牛皮城)、上里氏（同丸山城）などの庶子家がある。猶、神辺町下竹田の三吉鼓氏は佐々木氏系の三吉氏と伝えるが、この藤原姓三吉氏の庶家とした方がいと思われる。天正１９年の知行高は６１０１石余。

《その他》

①馬屋原氏　…鎌倉時代、神石郡志摩利庄の地頭として来住したというが確証はない。神石高原町小畠の九鬼城を本拠とした一族（平姓）と、同じく固屋城を本拠とした一族（源姓）があり、何れも後には毛利氏に臣従した。天正１９年の知行高は馬屋原兵部大夫（九鬼城）が８６３石、同弥右衛門（固屋城か）が４５０石。

②楢崎氏　　…足利尊氏から久左村（府中市）地頭職を拝領して来住したと伝えるが確証はない。その活躍が知られるのは戦国中期、三河守豊景の代からである。居城の朝山二子城は石垣を多用した山城としては出色のものである。天正１９年の知行高は周防（山口県）吉敷郡で９１８石。別に芦田郡で３０１石を一族が保持している。

③古志氏　　…出雲古志氏の一族で、備後に来住した時期と経緯は不明。戦国初頭には沼隈郡新庄本郷の大場山城を拠点に一帯に勢力を持っていた。天正１９年所領を没収され滅亡した。

④渡辺氏　　…信濃守高の代に備後草戸に来住、以後守護被官として頭角を表す。四代越中守兼の代に熊野町に一乗山城を築き、本拠を移す。毛利氏と最も親しい国人であった。

３、備後国人衆の盛衰

①備後の応仁の乱…守護山名氏の分裂（第一次)、山内首藤氏の台頭・毛利氏の介入。

②明応の争乱　　…守護山名氏の分裂（第二次)、山内氏と両広沢の抗争

③大内尼子の抗争…「朝に大内、夕に尼子」神辺城をめぐる戦い。

④毛利氏の制覇　…志川滝山合戦（１５５２年７月)、旗返城の陥落（１５５３年１０月）

⑤毛利元就の苦悩

「備芸衆は我々等輩の毛利に従われ候事、日夜口惜しく妬けなましく存じ居られ候」毛利家文書

室町・戦国時代

備後国人分布図

(注) ①城名を附すものは特に有力な国人である。

②―― は室町幕府奉公衆となった者

③□ は備後守護家及びそれに準ずる者